

**物語風教育論**

**Milai Al Cana 学校**

作

**邑中雄道**

**2023年8月10日**

私は Milai Al Gana 学校で「枠とりコース」の教師代表、Peda です。本日は当校の見学ツアーにご参加いただきまして誠にありがとうございます。不慣れなためいきとどこかぬ点もあろうかと思いますが、当校の見学が少しでもお役に立つことができればこの上ない喜びです。また、ご不明な点がありましたら、途中でも構いませんのでどうぞ遠慮なくご質問ください。

では、本日のツアーにご参加くださいました方のお名前をご紹介します。日本からお見えになりました額入様ご夫妻、カナダからお見えになりました Eulcunay 様、米国からお見えの Gumshallan ご兄弟様、中国からお見えの Won-Cina 様ご一家、イギリスからお見えの Kirksicky 家ご尊父様とお嬢様、フランスからお見えの Giboundacque 家ご母堂様とご令息様、ドイツからお見えの Hochimehl 博士様と研究助手様、でございます。どうぞ皆さま本日は宜しくお願い致します。

最初に、当校の特徴をお話しします。その後、各教室を見学いただき、学生や教師にもご自由にご質問ください。お帰りの際には、当校入学案内をお持ち帰りください。またご寄付に関するご案内もしておりますのでご厚情に賜ることができれば深く感謝いたします。

それでは、当校全体の説明から始めます。当校には校長がおりません。代わりに各学年に教員代表が置かれ、代表は教員の互選によって毎年選ばれます。代表には学年教員会議開催権と議題決裁権がありますが、人事権や予算決裁権はありません。学校全体の運営事項につきましては、全学年代表の集まる代表者会議と総会で決定しております。というわけで本日は第 20 学年教員代表の一人であります私のご案内いたします。

当校は第 1 学年から第 22 学年まであります。各学年は 2 つのコースに分かれています。1 つは「枠はめコース」、もう 1 つは「枠とりコース」です。子ども達や保護者の方が教育システムを選んでいただけるようにコースが設けられています。枠はめコースの教育理念は、子ども達の誰もが理想的な枠にはまっていくよう指導教育するものでございます。制服、制帽、コート、学校カバン、靴下、靴、など同じデザインや品質のものを着用し、子ども達が平等であることを体験できるように配慮しております。このコースの学生たちの運動会では足並みそろえて行進し、一糸乱れぬ集団演技でご父兄の皆様には大いにご満足いただいております。従って規則は厳しい点もありますが学生たちは礼儀正しく、言葉遣いも丁寧でございます。教育指導要領に従ってしっかりとした指導をしておりますので、学生の勉学は教育方針通りに進んでおります。1 クラスは 30 名から 40 名程度です。担任教員と補助教員が熱心に指導しておりますので、授業中に私語をする者はありません。

もう一つの枠とりコースでは、授業は担任教師の裁量に任せております。学生の服装や持ち物は自由ですが、登校や下校の時刻、授業開始・終了の時刻は厳格に守ることを学生に義務づけております。これは両コースともですが、いじめなど他者の権利を同意や理由なく侵害する場合には厳罰に処します。枠とりコースでは学生の特性を勘案しながら教師が学生の持つ能力を最大限に引き出すことを理念にしています。従って学生によって、また教科によって学生間で学力に差がでてきますが、その差を埋めるかどうかは学生自身が決めることです。二つのコースを簡単に申しあげれば、枠はめコースは学生の能力不足を埋めることで、学生が平等な学力をもてるようにすることです。枠とりコースでは学生が興味を持つ能力を引き出すことで、その学生の可能性を最大にすることです。このどちらのコースを選ぶかは学生や家族で決めていただきます。学年ごとにコースの選択は自由にできます。

最後に、両コースともに学年終了時に成績表が各学生に渡されます。そこには教科ごとに当該学年で達成すべき学力があるかどうか記されています。枠はめコースでは履修科目全てを修了することで卒業学年の第 6、第 9、第 12、第 14 から 18、第 20 から第 22 学年に卒業証書が発行されます。卒業学年時に当該学年の学力に達していない不合格科目があれば留年制度を利用してその科目

のみ再履修出来ます。その科目が合格になればその年度に卒業となります。一方、枠とりコースでは卒業証書はありません。それに代わるものが学年成績表です。合格科目については次の学年に進めます。不合格科目は再履修しても構いませんし、履修を放棄しても構いません。従って留年制度はありません。例えば、学生の主要科目の修了が第 20 学年まで進んでいても、第 15 学年で止まっている学科もあるということになります。就職では会社側がどの学科についてどの学年までの学力を求めているかということ念頭において、学生たちも目指す企業が求める学科学力を目標に勉強することが可能です。

それでは、これから第 1 学年の教室の見学に行きたいと思います。不要なお荷物はロッカーに入れて施錠してください。ご準備はよろしいですか。こちらが枠はめコースの第 1 学年の教室です。現在教室の学生数は 35 名です。学生は制服姿で姿勢を正して先生のお話を聞いていますね。私語をする子や居眠りをする子がいると先生はすぐに注意をしています。注意を聞かない子は、他の学生の学ぶ権利を妨害していると考えて教室の後ろにある視聴室に入ります。そこでは声を出しても先生以外の人には聞こえません。先生や学生の話はスピーカーを通して学生本人には聞こえています。静かにできると学生が約束すると視聴室から出してもらえます。それでも約束を守れない時には、補助教員が同伴して視聴室に入ります。それも困難な場合には、家族とも相談してその授業時間中は特別支援教室に移ることになります。ここでは子ども達の誰もが均等に成長することを目標にしています。何かご質問はありますか。なければ次の教室に移りたいと思います。

こちらは枠とりコースの第 1 学年の教室で学生数は 18 名です。枠とりコースを希望する学生数は、枠はめコース希望の学生数よりも多いため、枠はめコースは学年に 1 教室、枠とりコースは 4 教室あります。こちらは枠とりコースの教室の一つですが、授業は先生の裁量で進みますので授業スタイルも進捗状況も、枠とりコースの教室間でも異なります。また、学生は自由に教室を選べますので、人気のある先生とそうでない先生が出てきてきます。人気の先生の教室では、学生が教室定員の 20 名まで増えることもあります。一方、人気のない先生の教室では学生数が随分と減ることがありますが、人数が減ることで先生も学生も対応がしやすくなり、むしろそのままよいと考えることもあります。こうして教室間で自然のバランスがとれてきます。しかし先生達は会議で互いの授業スタイルを検討して切磋琢磨することになり、先生自身の向上にもなります。私語などに対しては枠はめコースよりは枠とりコースの方が寛大になりやすいですが、やはり他の子どもの権利妨害になっている場合には、視聴室入室や補助教員同伴、あるいは特別支援教室利用が行われます。この枠とり教室では子ども達が自分の能力を精一杯発揮できることを目指しています。そのため、同じ授業時間でありながら、学生によってやっていることが異なることもあります。ある子は絵をかき、ある子は友だちと話し合いをし、他の子は絵本をみている、という具合です。ただ、この子たちに共通するのは先生が与えたテーマです。やっていることは別々でもテーマは同じですから、先生は授業の終わりにそのテーマについてどんな方法で何を学んだかを尋ねています。さて、こちらの教室について何かご質問はありますか。なければ、見学最後の第 14 学年の教室に移りたいと思います。

こちらでは専門性もありますので、学生たちは自分が求める授業の行われる教室に集まってきます。人気のある授業では多数の学生が集まりますが、マンモス教室は学生にも教師にも負担になりますので、当校では 100 名までにしています。抽選で聴講席を確保できなかった学生は、オンラインで授業を受けるか、次年度で聴講席を確保するかになります。試験は年間 4 回以上行い、これらの結果を総合的に評価して学科を合格とするかどうか判断します。枠はめコースでは不合格科目で留年するか、中止するかになります。枠とりコースでは不合格科目を再履修するか中止するかになりますが、他の合格科目では進級できます。枠はめコースでは卒業前に中途退学できます。枠とり

コースではどの学年でも中断できますので、中途退学という考えはなく、中断した学年で卒業ということになります。再入学はいずれのコースでも自由ですが、枠はめコースでは卒業した学年より上の学年からの入学になります。枠とりでは学年成績表で合格した学年以降の学年から入学になりますが、科目によって入学年が異なることも起こります。また、枠とりコースでは指導教員と相談をして飛び級も可能になります。

お疲れ様でした。以上で、見学は終わります。最後にご質問があれば、ご遠慮なくしてください。

はい、そちらの方、どうぞ。学費についてですね。わが国では国民の基本的な生活権を保障する教育、医療は無料です。その分、税金が高いと言われますが、大切な教育や医療でペイバックされていることで国民も納得していると思います。

次の方は。はい、どうぞ。教員の確保の問題ですね。どの学年の教員も、教育学部を卒業していること、専門性の高い教員ではさらに専門の教育を受けていること、が必要です。第6学年までの教員は教育学部卒、それ以降の学年の教員は教育学部+専門学部卒ということになります。教員も自由に学年を選べますが、学生の成績表が思うように上がらない場合には、担当の学年を下げるなどの対応ができます。一方、成績表を上げることで教員も上の学年を担当できるようになります。教員が学生の評価を甘くして進級させた結果、その学生は進級した学年で授業についていけずに再履修となりますので、再びその教員が担当することになり、教員にフィードバックがかかることとなります。

では、次の方は。学生自身の反応ですか。これは一斉調査が毎年、行われています。枠はめコースの学生は全体の中では少数派ですが、彼らは彼らなりに充実した日々を過ごしています。一方、枠はめから枠とりに代わる学生もいますが、その逆の学生もいます。両方の体験が学生に気づかなかったことを気付かせて、一層向上心につながっています。枠はめと枠とりのどちらが良いか悪いかではなく、どちらでも選べるという教育環境が大切であろうと思います。学生の教育で必要なことは学生が必要としていることにどこまで応えられるかではないでしょうか。少なくとも食べたくない物を栄養になるからと一方的な思いで無理に食べさせることは教育的とはいえません。

では、次の方。家族の思いはどうかということですね。家族は当初、枠はめの教育の方が子ども達は言われたことを従順にこなしているように思えて子どものためになると思い込みやすいですね。確かに子ども達は人の意見を聞き、行動をとることは上手になり、これも大人で大変大切な側面であろうと思います。でも、子ども達にもう一つ必要なことは、自ら考え、行動し、失敗を反省して何度も挑戦するという姿勢です。枠とりではこのような姿勢を子どもたちが自ら作っていきます。しかし親には子ども達のこの行動は自分勝手な行動と映ることがあるようです。人間には依存心も自立心も必要ですから、どちらのコースが良いとか悪いということはありません。むしろ子ども達がこの2つの在り方を必要な時期に体験できることが重要であるように思います。

最後の質問になりますが。はい、どうぞ。不登校の子ども達がいるかのご質問ですね。当校には不登校学生はありません。なぜなら、気の進まない勉強を強いることがなく、子ども自身が拒否しても構わないからです。好きなことや得意なことを学べる環境であれば、子どもにとってそこは魔法の国になります。そして嫌いな勉強でも本人が勉強したくなった時や、勉強の必要性を感じた時に始めればよいのです。なお、枠はめでは枠とりよりも不登校の子どもが発生しやすいと危惧されますが、当校ではコースを選べるため不登校が成り立たないのです。また、いじめなどの人の権利を損なうような行動は厳しくいさめられていますので、いじめなどで登校しづらくなる子どもがいるとは聞いておりません。

本日は長い時間を当校の見学にいただきまして誠にありがとうございました。当校の在り方で少しでもご参考になることがあれば光栄です。それでは Milai Al Gana 学校の見学ツアーを終わりにしたいと思います。お帰りの折に、当校の入学案内と寄付願いの申込用紙をお持ち帰りください。

**終 了**